

巻 頭 言

第11回福岡県言語聴覚士会総会報告

副会長 佐藤 文保

去る、5月16日、第11回福岡県言語聴覚士会総会を開催しました。

開催に先立ち行いました講演会では、聖マリア病院の理学療法士 緒方孝先生に『言語聴覚士として必要な呼吸リハビリテーションの基礎』というテーマでご講演をいただきました。今回の講演会は、福岡県理学療法士会との研修交流の一環として、初めて理学療法士にお願いしました。講演会には**166名**の参加があり、多くのSTが呼吸リハビリテーションに興味を持っていることがわかりました。しかし、その反面、呼吸器に障がいをもっている患者さんのことで、悩んでいるSTも多いのではないかと感じる面もありました。講演会の内容は、基礎的なことから、評価の仕方、さらには呼吸リハビリテーションについて、わかりやすく教えていただきました。講演を聞く中で感じたことですが、やはり私たちSTがやれることと、そうでないことがあり、PTの先生とうまくコミュニケーションをとりながら、チームで患者さんと関わっていくことが重要であることを再確認しました。今後ともこうした機会を通して、リハ関連団体との研修交流が深まっていけばと思っています。

その後、総会を開催しました。総会には**77名**(委任状**191通**)の参加があり、昨年度の活動報告に対しては、会計決算における支出項目の挙げ方についてご指摘があったり、年会費の徴収率についての質問がありました。今年度の活動については、私たちの社会的な役割を意識し、『個人としての言語聴覚士』、『職場での言語聴覚士』、『地域での言語聴覚士』、『全国での言語聴覚士』といった、さまざまな視点から基調報告を述べさせて頂き、その後、各部局から今年度の活動計画を報告しました。報告に対しては、ブロック活動に対する県士会の協力体制のあり方について意見があったり、小児療育の環境整備についての要望がありました。

福岡県言語聴覚士会は今年で**10周年**を迎えます。こうした会員の声が、この**10年間**で、県士会の活動内容を変化させ、その成長に繋がっているものと思います。今年を『これからの**10年**』の出発点として、これからも社会的な役割を意識し、さらには会員の声を聞きながら、県士会を発展させていければと思います。

総会終了後には、毎年恒例の交流会を開催しました。短い時間ではありましたが、交流会にも多くの方々に参加していただき、ありがとうございました。